

# 🌱【NPO & 市民活動応援セミナー】🌱

～実践者とコミュニティワーカー・西川 正さんに学ぶ～



## コロナ禍だから

## やってみた

0歳児親子の為の  
子育て集会所

# 3/6(日)

14:00～16:00 / 定員先着 20名 / 入切: 3/5(土) 12時



【コロナ禍での地域活動挑戦事例 \* 実践者に学ぶ】

▽居場所づくり編: 「今ある困りごと」に耳をすませば (事例紹介)  
・ 笹子 真未 さん / かみきた子育て集会所

【コミュニティワーカーに学ぶ】

▽車座相談室 編: NPO&市民活動「運営もやもや相談道場」  
・ 西川 正 さん / NPO法人 ハンズオン埼玉

NPO や市民活動の行動特性として、「自分たちの身近な問題を発見」したところから活動がスタートします。コロナ禍で出産し子育てがスタートした方は、子育てを誰かに頼ることができない…休みたくても休めない…という悲痛な叫びがありました。これを耳にした当事者が立ち上がり、「0歳児親子の為の子育て休憩所」を期間限定でオープンしました。立ち上げ事例を紹介しつつ、どのようにして実現に至ったか、コロナ禍の奮闘と創意工夫をお伝え頂きます。

後半は参加者と共に「運営もやもや道場」を行います。参加者同士の困りごとをわかちあう中、それぞれの困りごとへのアイデアを出しあう時間を作ります。みなさまの参加を心よりお待ちしております。

【会場】 世田谷区役所第3庁舎3階ブライトホール (世田谷区世田谷 4-21-27)  
※休日の為、入口は1階正面入り口 (第二庁舎側のみ) となります。

【申し込み】 電話 / メールにて申し込み [npo-seminar@otagaisama.or.jp](mailto:npo-seminar@otagaisama.or.jp)

※メールでの申し込みの場合、件名に「コロナ禍での市民活動・参加希望」と明記の上

①氏名、②ご所属、③電話番号、④参加動機、⑤相談事項をご記入ください。

無料  
講座

【お問い合わせ先】 世田谷ボランティア協会 (担当: 大垣内)

連絡先: [npo-seminar@otagaisama.or.jp](mailto:npo-seminar@otagaisama.or.jp) / 03-5712-5101

HP: <https://www.otagaisama.or.jp/>

～コロナの感染状況によっては、やむを得ずオンラインの可能性もあること、ご容赦ください～

主催: 世田谷区生活文化政策部市民活動・生涯現役推進課 / (社福)世田谷ボランティア協会

## 今回の学びどころ 悩みに気づき ヒントを得る



- 【ホップ】自団体の悩み / 困りごとを書き出すミニワーク  
【ステップ】「コロナ禍だからやってみた」実践者の奮闘記お話し  
① コロナ禍での奮闘と創意工夫，② 運営者同士のコミュニケーション  
【ジャンプ!】実践者&講師の方、参加者との車座相談室  
～悩みを分かち、ヒントを得る～



### 講師のみなさん、ご紹介



#### 笹子 真未さん (Mami Sasako) / かみきた子育て集会所

▼かみきた子育て集会所運営者。

コロナ禍で各地の子育て広場が閉じていく中、SNSにあるのはこれまでと変わらず育児の辛さと嘆く声。そこでSNSを活用しながら、当事者の困りごとや社会的なニーズを調査しつつ、0歳児親子を対象とした子育て広場「かみきた子育て集会所」を期間限定オープン

【今回の聴きどころ】

SNSフル活用！

子育て世代の「あったらいいな」を反映させた居場所づくり

「コロナ禍だからこそ」オープンした奮闘と創意工夫ポイント



#### 西川 正さん (Tadashi Nishikawa) / NPO 法人ハンズオン埼玉

▼コミュニティワーカー / NPO 法人ハンズオン埼玉理事

「おとうさんのヤキモタイム」キャンペーンをはじめ、行政・企業を巻き込んだ市民参画型のまちづくりを行う。お客様にしない「公共マネジメントの在り方」をはじめ、ご自身のお仕事・子育て経験から、その都度、違和感を研究し、遊び心たっぷりに伝える。

【今回の聴きどころ】

保育所，学童，PTA，町会等々、様々な思惑が絡み合い時に対立の場に立ち会ってきた西川さんならではの…の対話の作り方。

一緒に悩んで頂きます。

### 企画経緯 NPO & 市民活動相談窓口「一緒に悩もう相談室」より

当協会では、どんな素朴な相談でもお受けするNPO&市民活動相談窓口があります。2021年4月～12月の期間内だけでも約180件以上の相談が集まりました。コロナ禍において、相談が増えた要因として、ステイホームをせざるを得ない状況の中、1人1人の生活様式にも影響があったこと。これまで会社と家、あるいは学校と家の往復だった人が、自分が住む地域や社会に目を向ける人が多くなり、「こんなことをやってみたいな」というひとつの方法としてボランティア活動を選ぶ人も増えているように感じています。

あるいは、コロナ禍により「困りごとの当事者」として、「あったらいいな」を実現しようと動き出す人が増えた…という実感もあります。「お金も知恵も経験も、ノウハウもない！」ないないづくし…の中にあっても、新しい団体を立ち上げること。新たな事業を展開したい！という声もたくさん寄せられました。

地域の中であらうごめく新たな挑戦を、微力でも応援できたら…、と願って今回の企画を作りました。